

令和7年度「教育に関する事務の管理及び執行状況」の 点検及び評価報告書(案)の概要

第1部 教育委員会の活動状況

第2部 教育委員会の事務の点検・評価

＜第7次教育振興計画(前期計画)の基本方針Ⅰ～Ⅲ、アクション1～8毎に整理＞

- I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する
 - 1 自ら考え、主体的に行動する力を育む
 - 2 新たな価値を創造する力を育む
 - 3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む
- II 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する
 - 4 それぞれの個性を活かし尊重した学びを実現する
 - 5 生涯にわたり学びやスポーツ・文化芸術活動を楽しむ
- III 社会の変化に対応した学びの環境を整える
 - 6 教育DXを実現する
 - 7 活力あふれる学校を実現する
 - 8 家庭や地域と一体となって学びを支える

参考資料

令和8年9月2日 山形県教育局

《スライドにおける凡例》 ● 主な取り組み ● 主な統計指標や現状把握等

第1部 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する、教育に関する事務に関して審議するため、毎月1回定例会を開催。必要な場合は臨時会を開催。

(R7開催状況) ・ 定例会12回、臨時会1回 ・ 議事52件、報告10件

2 教育懇談会

委員が、教育関係者をはじめとする県民から幅広く意見を聴き、教育現場の実情把握に努め、それらを教育施策に反映させることを目的として開催。

(1) 庄内地区 (R7.7.9)

① 鶴岡市立朝暘第五小学校訪問 ② 庄内地区各市町教育委員会との懇談

(2) 最上地区 (R7.10.20)

① 新庄市立新庄中学校訪問 ② 最上地区各市町教育委員会との懇談

3 教育委員協議会

当面する検討課題等について、現場での取組状況に係る調査や県公安委員会委員との意見交換を実施。

(1) 現場での取組状況に係る調査

① 山形南高等学校、ゆきわり養護学校 (R7.6.24) ② 小国高等学校、米沢鶴城高等学校 (R7.10.3)

(2) 意見交換

① 英語教育の充実について (R7.5.15) ② キャリア教育の充実について (R7.6.10)

③ 学力向上に向けた取り組みについて (R7.7.24) ④ 教職員の養成・確保について (R7.8.27)

⑤ 教育現場におけるデジタル技術の活用について (R7.9.11) ⑥ 県立高校の魅力発信について (R7.10.15)

⑦ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上について (R7.12.23)

⑧ 公立高校をめぐる国の動向と今後の県立高校の在り方について (R8.2.9)

4 総合教育会議

教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策等について、知事と協議、調整を行うために開催。

(R7開催状況) ・ 第16回 (R8.1.20)

・ 教師を取り巻く環境整備の推進について～学校における働き方改革の一層の推進について～

第2部 教育委員会の事務の 点検・評価

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

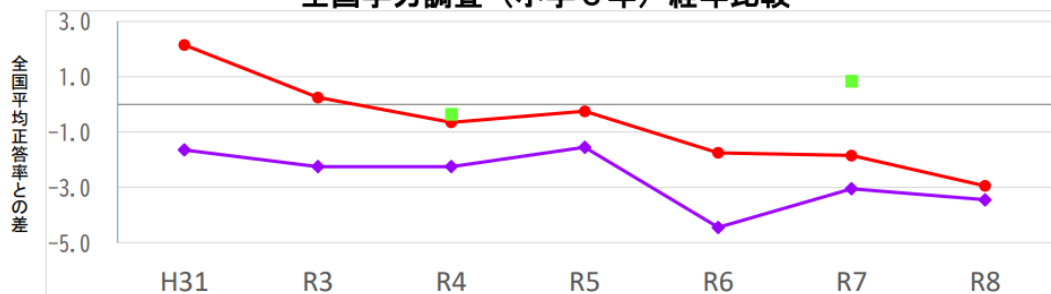
1 自ら考え主体的に行動する力を育む

- 学力向上アクションプランの作成や全県オンラインフォーラムの開催、「算数・数学及び英語評価問題」の活用等、社会を生き抜く確かな学力の育成に向けた取組みを展開。
- 実践推進校の指定による児童生徒と教員の英語使用の充実を踏まえた授業改善、及び学力上位県への視察等を実施。

【学力調査の結果】

- 小学校は、国語と算数、中学校は、国語、数学及び英語の全ての教科で全国平均を下回った。
- 昨年度と比較して、小学校は国語、算数ともに全国平均との差が広がり、中学校は数学において若干の回復傾向がみられたものの、国語は全国平均との差が広がった。

全国学力調査（小学6年）経年比較

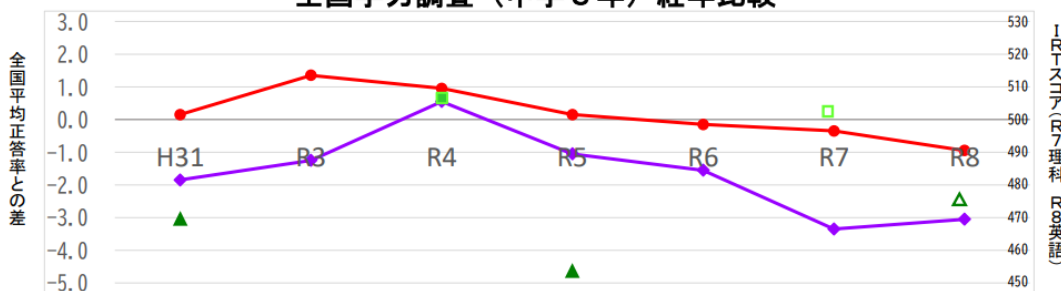


〈KPI〉※ 小学校・中学校の合計
⑨全国学力・学習状況調査で正答率が全国平均以上の科目数 (R8. 4)

× 未達成 (目標値) 5科目中4科目
(実績値) 5科目中0科目

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	1.7 ~ 2.6	-0.2 ~ 0.7	-1.1 ~ -0.2	-0.7 ~ 0.2	-2.2 ~ -1.3	-2.3 ~ -1.4	-3.4 ~ -2.5
算数	-2.1 ~ -1.2	-2.7 ~ -1.8	-2.7 ~ -1.8	-2.0 ~ -1.1	-4.9 ~ -4.0	-3.5 ~ -2.6	-3.9 ~ -3.0
理科			-0.8 ~ 0.1			0.4 ~ 1.3	

全国学力調査（中学3年）経年比較



※平均正答率について、全国値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、グラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

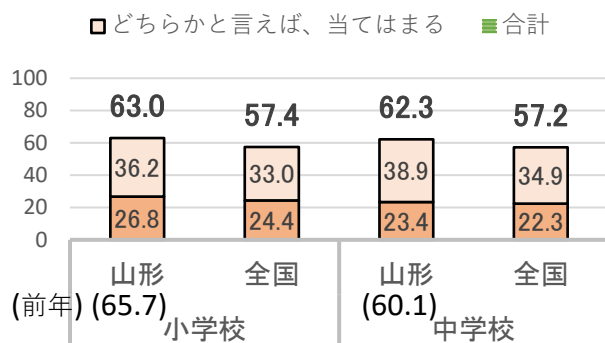
	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	-0.3 ~ 0.6	0.9 ~ 1.8	0.5 ~ 1.4	-0.3 ~ 0.6	-0.6 ~ 0.3	-0.8 ~ 0.1	-1.4 ~ -0.5
数学	-2.3 ~ -1.4	-1.7 ~ -0.8	0.1 ~ 1.0	-1.5 ~ -0.6	-2.0 ~ -1.1	-3.8 ~ -2.9	-3.5 ~ -2.6
理科			0.2 ~ 1.1			1	
英語	-3.5 ~ -2.6			-5.1 ~ -4.2			-2.3

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

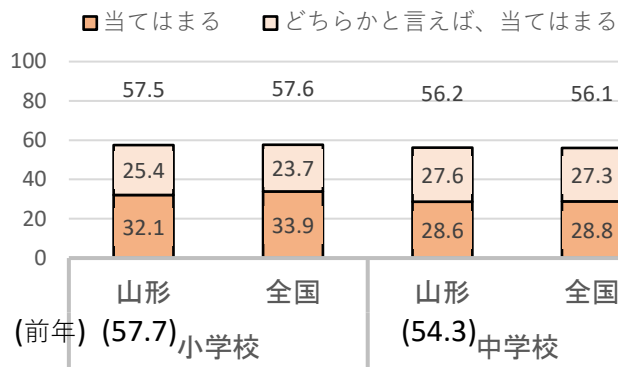
1 自ら考え主体的に行動する力を育む

- 勉強が「好き」との回答は、前年度より小学校は国語が減少し、算数は横ばい。中学校は両教科とも増加。
- 授業の内容は「よく分かる」との回答は、前年度より小学校は減少、中学校は増加。引き続き、教師の指導力向上に努めていく必要がある。

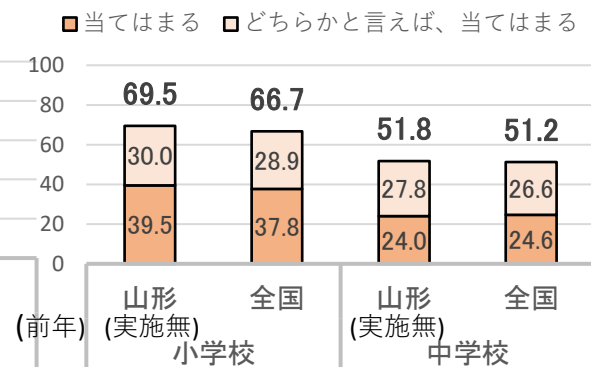
国語の勉強は好きだ



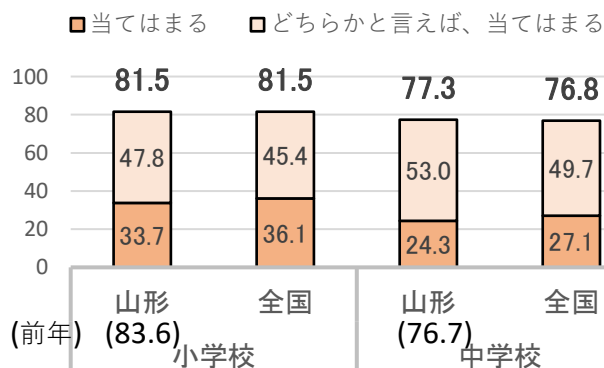
算数（数学）の勉強は好きだ



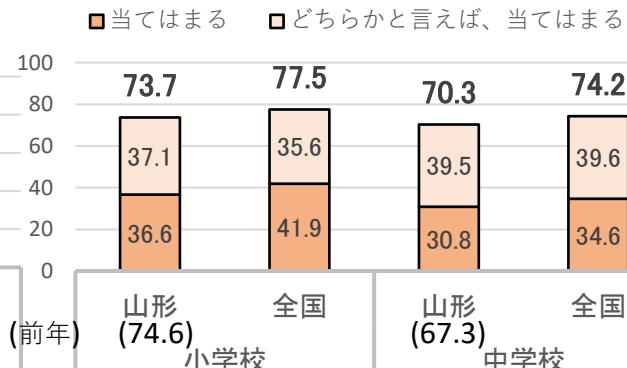
英語の勉強は好きだ



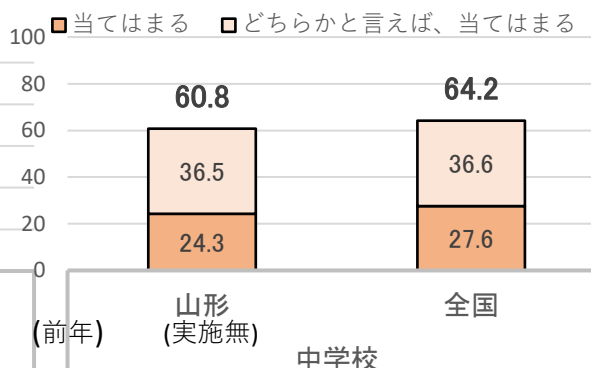
国語の授業の内容はよく分かる



算数（数学）の授業の内容はよく分かる



英語の授業の内容はよく分かる



〈KPI〉①国語、算数・数学、英語の勉強が「好き」な児童生徒の割合（R8.4）

×未達成（目標値）国小6：70.0%・国中3：70.0%・算小6：65%・数中3：65%
（実績値）国小6：63.0%・国中3：62.3%・算小6：57.5%・数中3：56.2%

②国語、算数・数学の授業の内容が「分かる」と答えた児童生徒の割合（R8.4）

×未達成（目標値）国小6：90%・中3：85%・算小6：85%・数中3：75%
（実績値）国小6：81.5%・中3：77.3%・算小6：73.7%・数中3：70.3%

（資料）R8. 全国学力・学習状況調査（質問紙調査）文部科学省

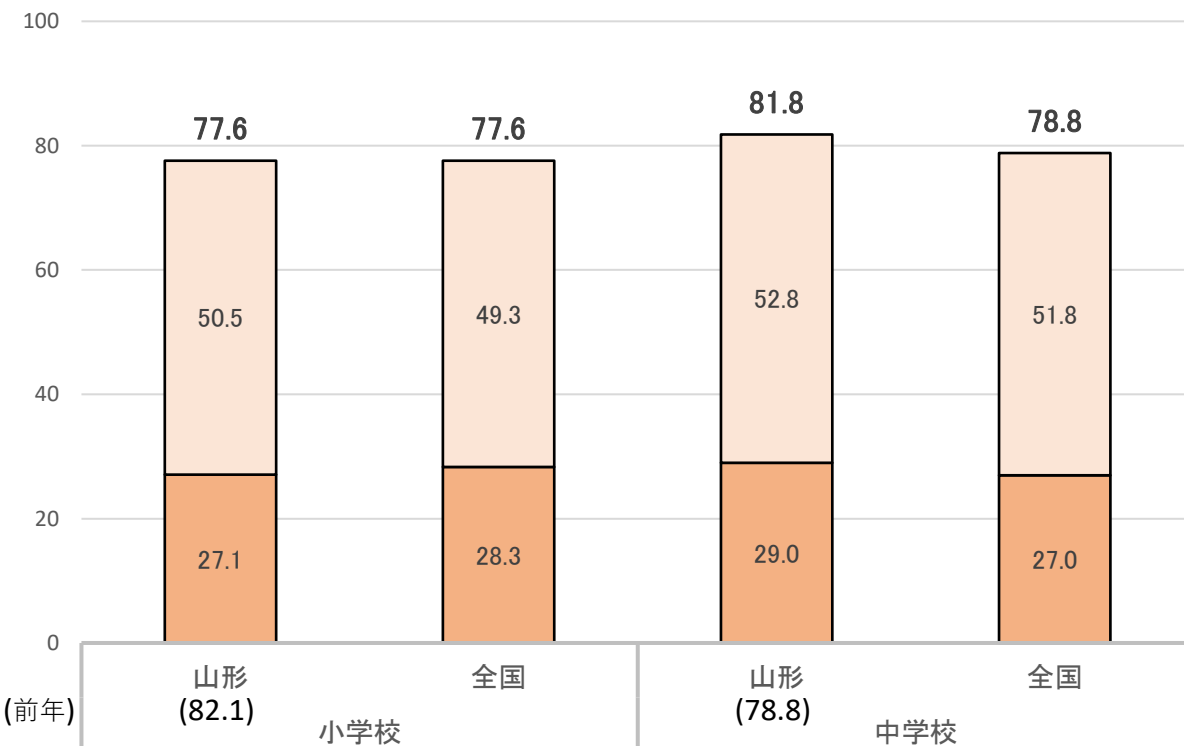
I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

1 自ら考え主体的に行動する力を育む

- 「授業中に課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という児童生徒の割合は小学校では全国平均と同等、中学校では全国平均を上回った。
- 前年度より小学校は減少、中学校は増加。引き続き教師の指導力向上に努めていく必要がある。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる □ どちらかといえば当てはまる



〈KPI〉

⑤「授業中に課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という児童生徒の割合

×未達成

(目標値) 小6:82.0% 中3:83.1%

(実績値) 小6:77.6% 中3:81.8% (R8.4)

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

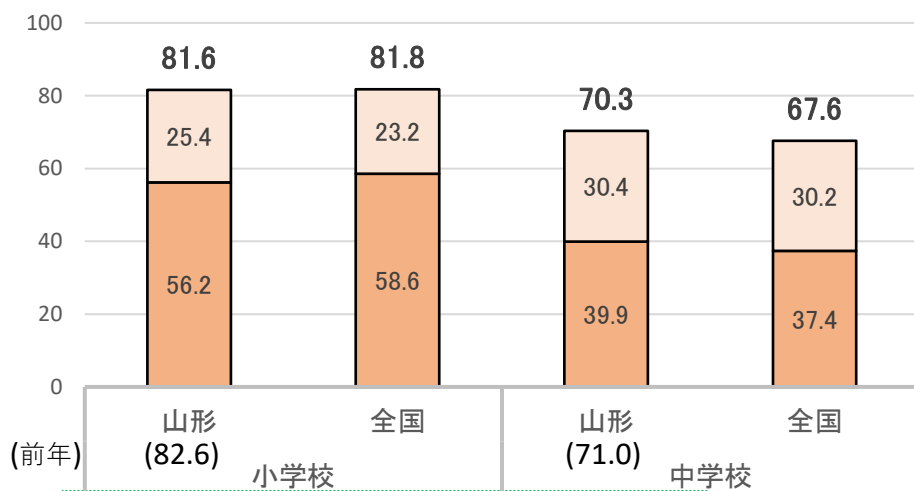
1 自ら考え主体的に行動する力を育む

- 「キャリア・パスポート」の活用により、自らの学びのプロセスを振り返り、生き方の見通しを立てるキャリア教育を推進。
- 地域企業へのインターンシップや看護体験、地元企業への見学等を行い、将来の進路選択につなげる取り組みを実施。

- 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と比較して同程度か高い傾向。
- 「職場見学・職場体験等を行っている」学校は、前年度より小学校が減少した。

将来の夢や目標を持っていますか

■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる



〈KPI〉

⑦ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

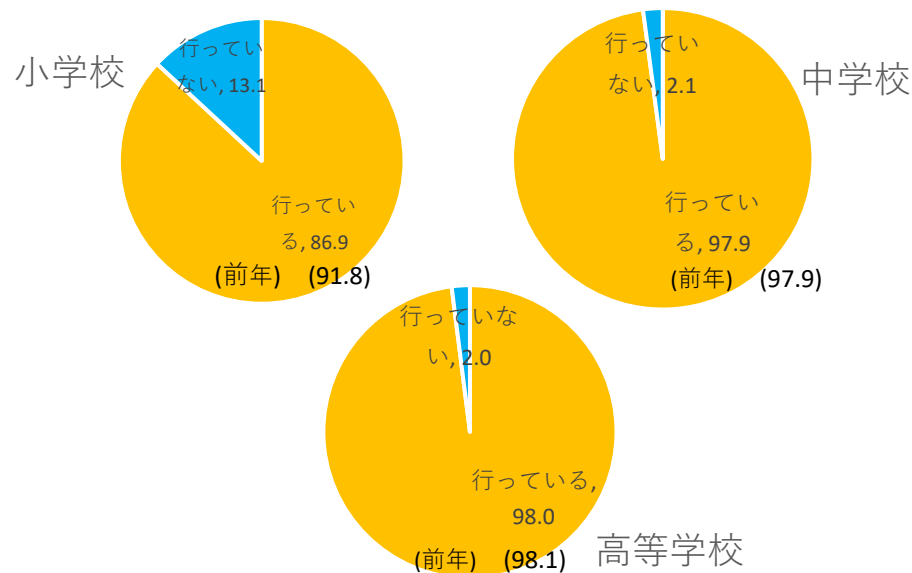
○ 概ね達成

(目標値) 小6: 83.0% 中3: 68.9%

(実績値) 小6: 81.6% 中3: 70.3% (R8.4)

(資料) R8. 全国学力・学習状況調査 (児童生徒質問)

職場見学・職場体験等を行っている小中高等学校の割合



〈KPI〉

⑧ 職場見学・職場体験等を行っている小中校等学校の割合

× 未達成

(目標値) 小6: 92% ・ 中3: 98% ・ 高: 100%

(実績値) 小6: 86.9% ・ 中3: 97.9% ・ 高: 98.0% (実施50校/全体51校)

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

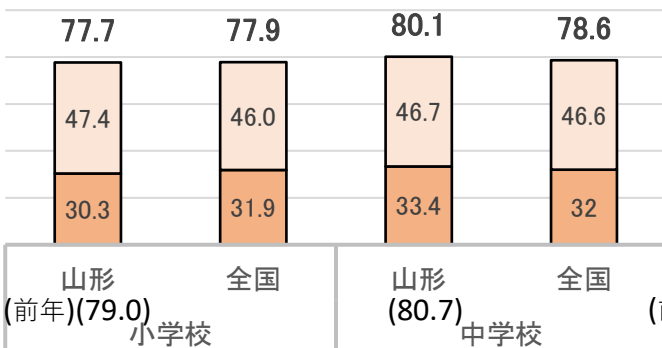
2 新たな価値を創造する力を育む

- 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実による、主体的・対話的で深い学びの授業実践の推進を図る地区別研修会の開催。

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思う児童生徒の割合は、小中学校とも目標を達成。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」と思う児童生徒の割合や、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりしている」と思う児童生徒の割合は、昨年度より増加した項目もあるものの、目標値には達していない。

自分と違う意見について考えるのは楽しい

■当てはまる □どちらかといえば当てはまる

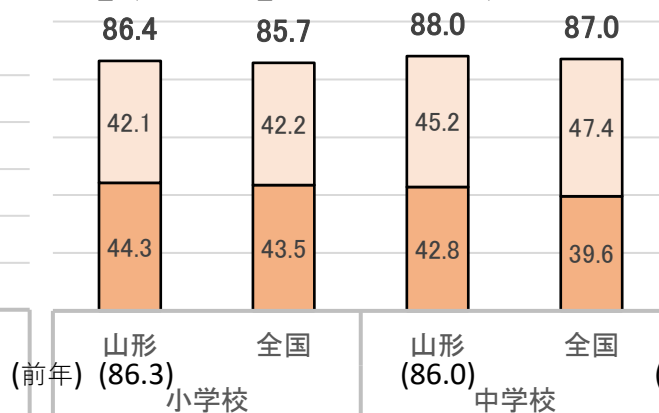


〈KPI〉
⑩「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思う児童生徒の割合

◎達成
(目標値) 小6:77.0%・中3:79.0%
(実績値) 小6:77.7%・中3:80.1% (R8.4)

話し合う活動を通じて考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりした

■当てはまる □どちらかといえば当てはまる

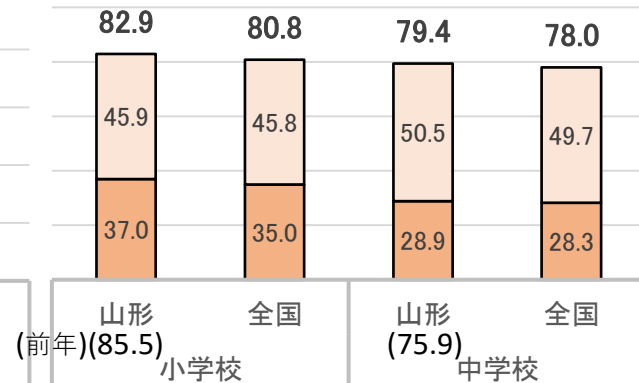


〈KPI〉
⑪「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」と思う児童生徒の割合

×未達成
(目標値) 小6:87.1%・中3:88.9%
(実績値) 小6:86.4%・中3:88.0% (R8.4)

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりしている

■当てはまる □どちらかといえば当てはまる



〈KPI〉
⑫「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりしている」と思う児童生徒の割合

×未達成
(目標値) 小6:86.1%・中3:81.5%
(実績値) 小6:82.9%・中3:79.4% (R8.4)

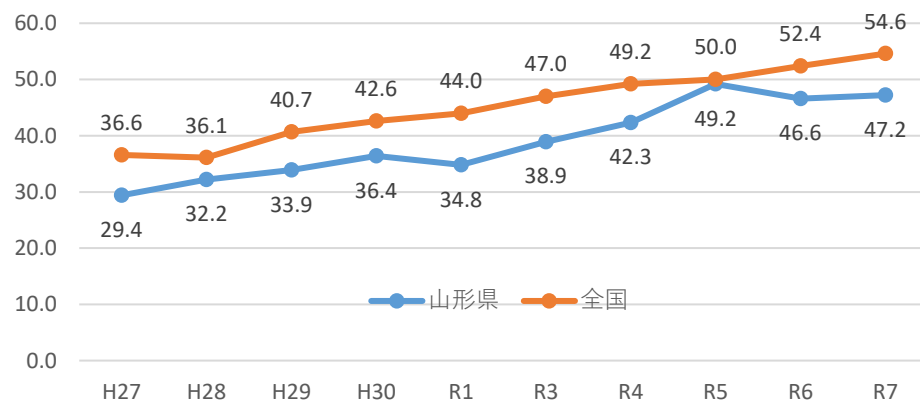
I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

2 新たな価値を創造する力を育む

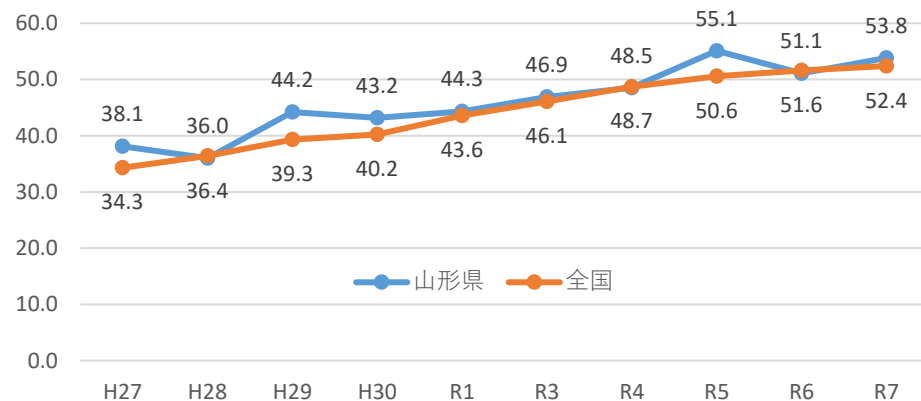
- 英語ディベート大会への参加や高校生の海外留学を通じた国際交流を支援する事業等により、語学力をはじめとするグローバル化に対応する実践力を育成。
- 英語実践推進校の指定による授業改善の取り組みと県内への発信・共有。

● 英語力については、CEFR（セファール）の割合が、中・高ともに前年度より増加しているが、目標値には達していない。

CEFR A1以上の中学3年生（％）



CEFR A2以上の高校3年生（％）



（資料）R7「英語教育実施状況調査」（文部科学省）

〈KPI〉

⑬ CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる中学生の割合	× 未達成	（目標値）51%	（実績値）47.2%	（R8.6）
CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる高校生の割合	× 未達成	（目標値）56%	（実績値）53.8%	（R8.6）

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む

- 企業・団体等との連携・協働による体験機会の充実や、郷土の魅力発見・体験プログラムの普及を図り、豊かな心の育成を推進。
- いじめ問題対策連絡協議会の下、いじめ解決支援チームの学校訪問やS S W※の派遣、S C※の学校への配置、全学校でのいじめアンケート（年2回）及び24時間体制の子どもSOSダイヤルや全高等学校でのS N Sによる相談等、相談体制を充実強化。

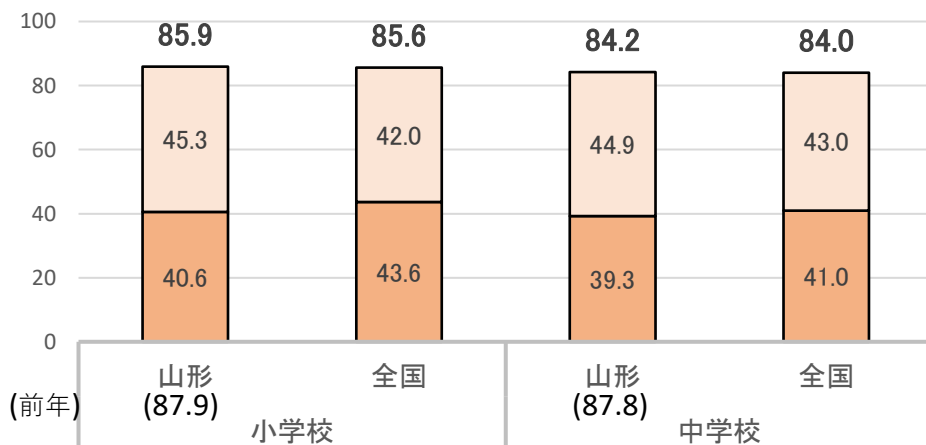
※ SC（スクールカウンセラー）：児童生徒へのカウンセリング困難・ストレスへの対処方法に資する教育プログラムの実施、児童生徒への対応について教職員等への専門的な助言，教育のカウンセリング能力研修等を行う心理の専門家

※ SSW（スクールソーシャルワーカー）：問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整、学校内におけるチーム体制の構築・支援などの役割を果たす福祉の専門職

- 「自分には良いところがある」と思う児童生徒の割合、「友達関係に満足している」と思う児童生徒の割合はともに目標値を概ね達成、全国と比較して同程度か高い傾向。

自分には、よいところがある

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる



〈KPI〉

⑮自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

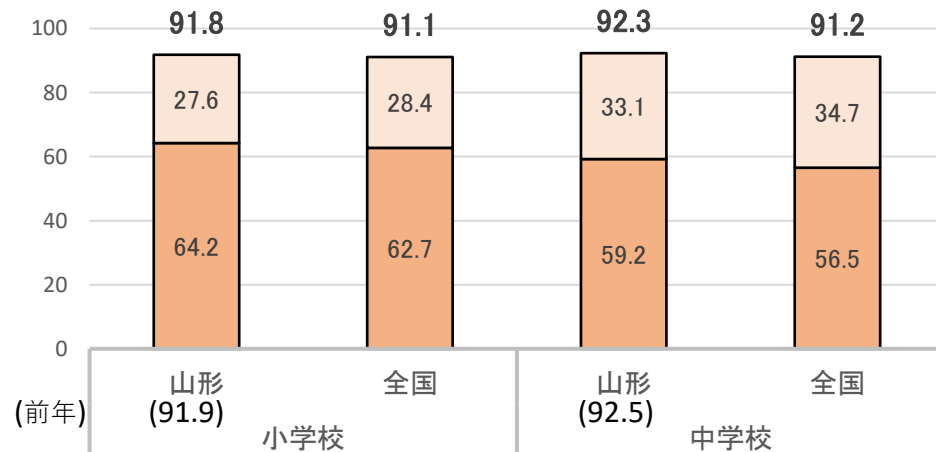
○概ね達成

（目標値）小6:84.5%・中3:84.9%

（実績値）小6:85.9%・中3:84.2% (R8.4)

友達関係に満足している

■ 当てはまる □ どちらかといえば当てはまる



〈KPI〉

⑯友達関係に満足している児童生徒の割合

○概ね達成

（目標値）小6:92.8%・中3:91.2%

（実績値）小6:91.8%・中3:92.3% (R8.4)

I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

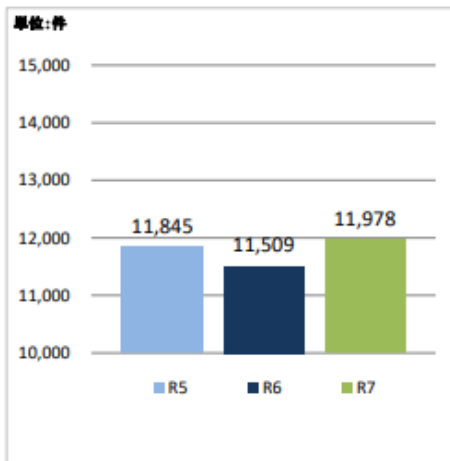
3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む

- 令和7年度の県全体のいじめの総認知件数は、前年度比 104.1%と増加した。「何がいじめにあたるのか」について理解が深まる小学2・3年生でいじめ認知数は最も多くなり、その後は減少するが、中学1年生になると、環境の変化や人間関係の多様化・複雑化により認知件数が上昇する傾向がある。
- いじめが解消しているものの割合は100%に近い状態。

1 いじめの状況

(1)ー1 学校種別いじめの認知件数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
R5	9,388 件	2,196 件	205 件	56 件	11,845 件
R6	9,186 件	2,053 件	198 件	72 件	11,509 件
R7	9,628 件	2,078 件	203 件	69 件	11,978 件
前年増減	442 件	25 件	5 件	-3 件	469 件
前年比	104.8%	101.2%	102.5%	95.8%	104.1%



〈KPI〉

⑰いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合
(小・中・高・特支)

○概ね達成

(目標値) 100%

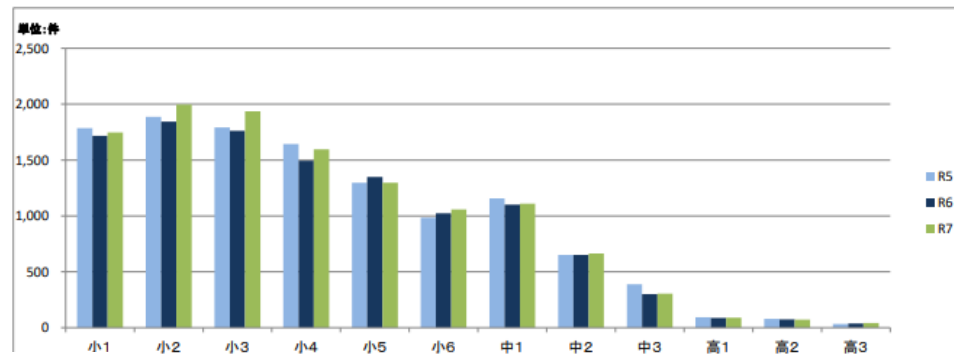
(実績値) 98.7%

(R6認知分 R8.3.31時点)

(1)ー2 過去3年間の学年別認知件数(小中高)

単位:件

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
R5	1,785	1,887	1,792	1,643	1,296	985	1,157	650	389	93	79	33
R6	1,717	1,844	1,761	1,492	1,348	1,024	1,100	652	301	86	75	37
R7	1,747	1,996	1,936	1,595	1,296	1,058	1,110	664	304	89	73	41



2 いじめの解消状況

(2) 令和6年度認知分の令和7年度末の状況

	いじめが解消した		解消に向けて取組中		その他(転校等)		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
R6	11,360 件	98.7 %	142 件	1.2 %	7 件	0.1 %	11,509 件

※「いじめの解消」の定義

「いじめに係る行為が3か月止んでいること」
「被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと」
という2つの要件を満たすこと
「いじめの防止等のための基本的な方針」
(文部科学大臣決定平成25年10月)

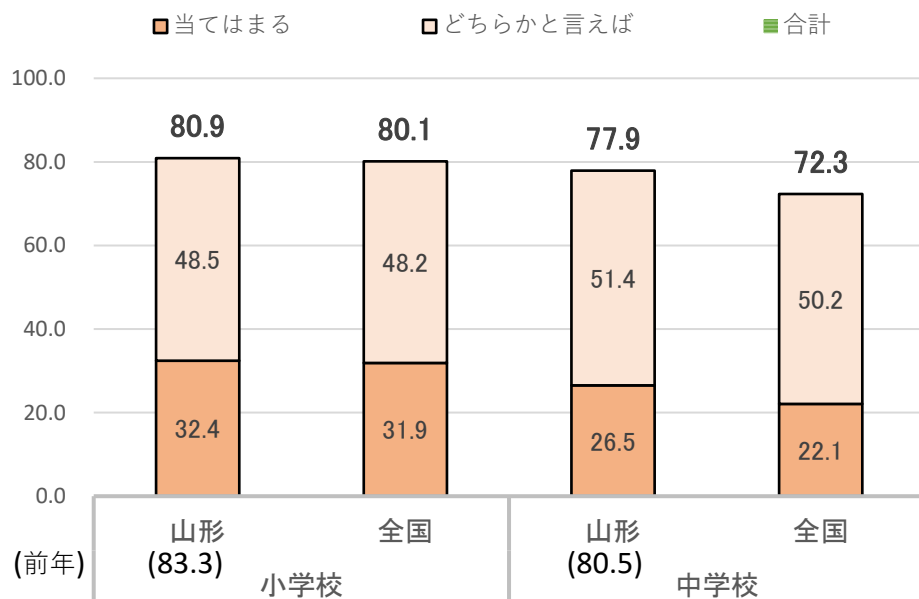
I 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する

3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む

- SNSやホームページ等による県内のボランティア活動状況の発信や、中高生向けのボランティアセミナーを実施し、主体的なボランティア活動への参画を促進。

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思う児童生徒の割合は、目標値に達していない。背景としては、調査対象の児童生徒が低学年の時にコロナ禍であり、地域活動・ボランティア活動の経験が少なかったことが要因の一つと考えられる。

地域や社会をよくするために何かしてみたい



〈KPI〉

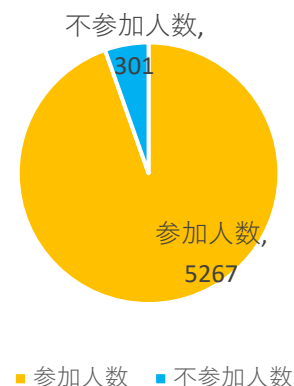
⑮地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合
×未達成

(目標値) 小6:85.9%・中3:81.3%

(実績値) 小6:80.9%・中3:77.9% (R8.4)

(資料) R8. 全国学力・学習状況調査 (児童生徒質問)

小学校から高校3年生までに地域活動
・ボランティア活動に参加した経験がある



〈KPI〉

⑲高校3年生までに地域活動・ボランティア活動に参加した経験がある生徒の割合

(目標値) 80%

(実績値) 94.6% (5,568人中5,267人)

(資料) R7. 県内高等学校全日制3年生の地域活動・ボランティア活動調査

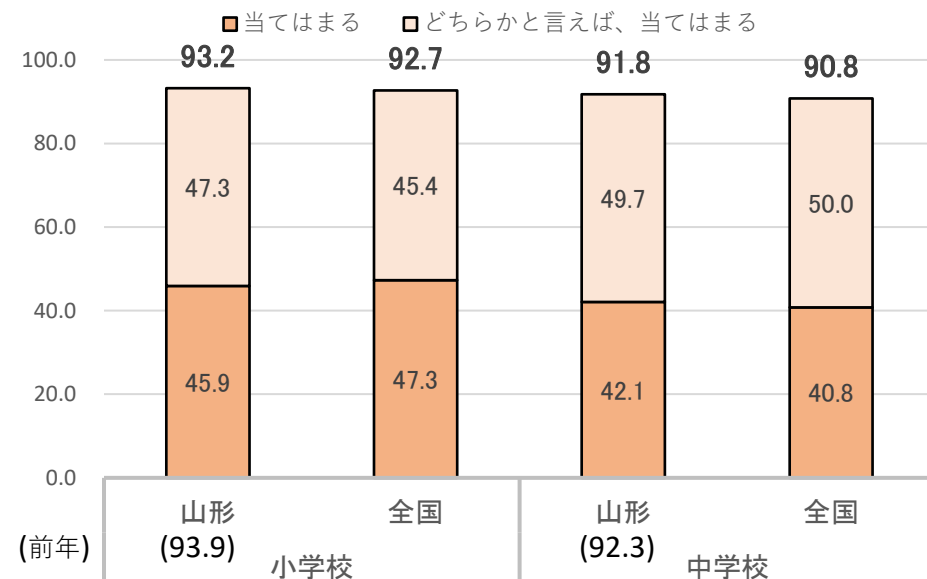
Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する

4 それぞれの個性を活かし尊重した学びを実現する

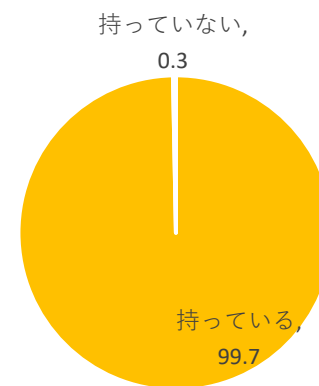
- 共生社会の形成を目指した理解啓発の推進、特別支援教育の充実と推進。
- 不登校対策と不登校児童への対応、家庭の事情等により学業に影響が生じている子どもへの対応、外国人の子どもへの対応を行う。

- 「人が困っている時には進んで助けている」児童生徒の割合は、目標値を概ね達成。
- 「不登校児童生徒のうち、学校や学校外の機関等とつながりを持っている」児童生徒の割合は100%に近い。

人が困っている時には進んで助けている



不登校児童生徒のうち、学校や学校外の機関等とつながりを持っている児童生徒の割合



〈KPI〉

②⑤不登校児童生徒のうち、学校や学校外の機関等とつながりを持っている児童生徒の割合

◎達成

(目標値) 96%

(実績値) 99.7%

〈KPI〉

②②人が困っている時には進んで助けている児童生徒の割合

○概ね達成

(目標値) 小6:93.4%・中3:91.5%

(実績値) 小6:93.2%・中3:91.8% (R8.4)

Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する

5 生涯にわたり学びやスポーツ・文化芸術活動を楽しむ

- 生涯学習推進体制の整備、県立図書館活動整備。
 - 豊かなスポーツライフの実現、アスリートの発掘育成。
 - 文化芸術の振興、伝統芸能育成事業
- 「公民館等で開催されている各種事業・講座等への参加人数」は目標値に達していない。天候（酷暑）やクマ出没対策等による事業の中止や規模縮小等の影響によるものと考えられる。

● 公民館等で開催されている各種事業・講座等への参加人数

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
520,405人	176,075人	265,025人	393,929人	467,489人	419,563人	441,900人

〈KPI〉
⑳ 公民館等で開催されている各種事業・講座等への参加人数
× 未達成
（目標値）468,000人
（実績値）441,900人（R7）

（資料）R8「市町村における社会教育事業調査報告」

Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する

5 生涯にわたり学びやスポーツ・文化芸術活動を楽しむ

● 豊かなスポーツライフの実現、アスリートの発掘育成。

● 「成人のスポーツ実施率」は微増で目標値には至らず40.5%。新規参加者は一定程度増えている一方で、週1回以上の習慣化に至っていない層が多いこと、月1～2回程度の間層が週1回に移行していないことが要因と考えられる。

成人のスポーツ実施率（週1回程度）

年度	R6	R7
実績値	40.0%	40.5%

〈KPI〉

③⑩成人のスポーツ実施率（週1回程度）

× 未達成

（目標値）42%

（実績値）40.5%（R7）

（資料）R7「県スポーツ推進委員調査」

Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する

5 生涯にわたり学びやスポーツ・文化芸術活動を楽しむ

● 文化芸術の振興、伝統芸能育成事業

- 「県立文化施設等の来館者数」については各文化施設がイベントや公演・展示会等を計画的に開催し、目標を達成。
- 「文化芸術活動に年5回以上取り組んだ小中学校の割合」は、目標値を概ね達成。中学校において吹奏楽発表会、絵画・美術発表会など、部活動に関連した文化芸術活動が多く実施されたことが要因と考えられる。

県立文化施設等の来館者数

年度	R6	R7
実績値	1,281,122人	1,391,188人

〈KPI〉

⑳県立文化施設等の来館者数

◎達成

(目標値) 128万人

(実績値) 1,391,188人 (R7)

(資料) 「県観光文化スポーツ部まとめ」

文化芸術活動に年5回以上 取り組んだ小中学校の割合

年度	R7
実績値	58.2%

〈KPI〉

㉓文化芸術活動に年5回以上取り組んだ小中学校の割合

○概ね達成

(目標値) 60%

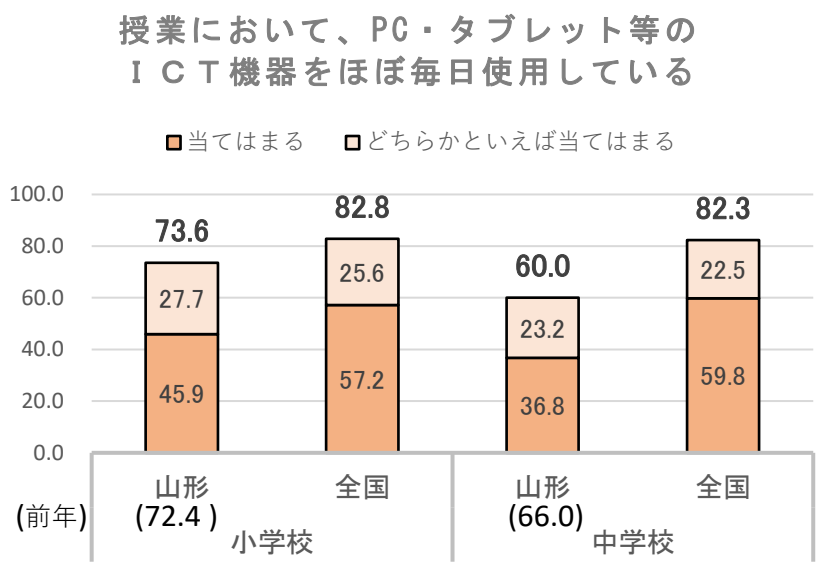
(実績値) 58.2% (R7)

(資料) 「県生涯教育・学習振興課調べ」

Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

6 教育DXを実現する

- 教員研修を行い、ICTを活用した学習の充実を図る。
 - 学校教育DXの促進を図る。
- 「授業において、PC・タブレット等のICT機器をほぼ毎日使用している小中学校の割合」については、前年度より小学校は増加、中学校は減少しているが、目標値は達成。



〈KPI〉
③④授業において、PC・タブレット等のICT機器をほぼ毎日使用している小中学校の割合
◎達成
(目標値) 小6:60%・中3:60%
(実績値) 小6:73.6%・中3:60.0% (R8.4)

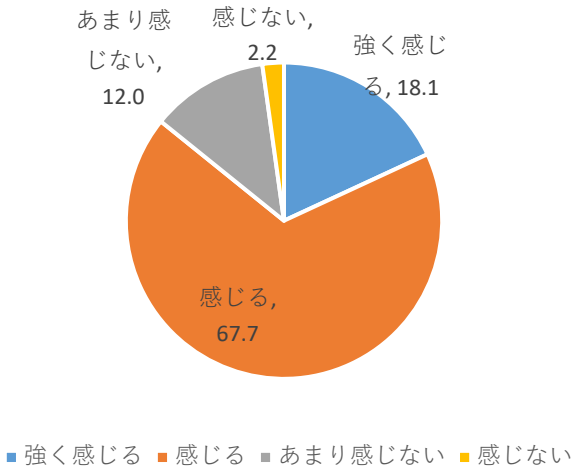
(資料) R8. 全国学力・学習状況調査 (児童生徒質問)

Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

7 活力あふれる学校を実現する

- 「山形県公立学校における働き方改革プラン」「山形県における部活動改革のガイドライン」等に基づく教職員の働き方改革の推進やメンタルヘルス対策の推進。
- 「働きがいを感じる教員の割合」は、85.8%となり目標値を達成。
- 「半期における時間外在校等時間の月平均が80時間を超える教員数」については、第Ⅰ期働き方改革プランの令和2年度における267人から約43%減の151人とはなったものの、目標値に達していない。

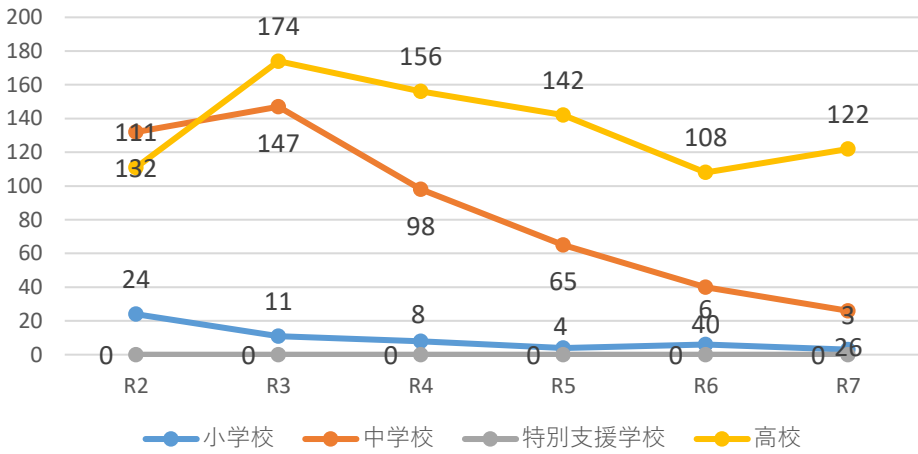
働きがいを感じる教員の割合



〈KPI〉
③⑦ 自分の仕事にやりがいを感じている教員の割合
◎達成
(目標値) 60%
(実績値) 85.8% (R8.3)

(資料) 教職員課調べ (R8.3)

月平均80時間超の人数の推移 (上期)



〈KPI〉
③⑧ 半期における時間外在校等時間の月平均が80時間を超える教員数
×未達成
(目標値) 120人
(実績値) 151人
小：3人・中：26人・特：0人・高：122人 (R7上期)
小：6人・中：40人・特：0人・高：108人 (R6上期)

Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

7 活力あふれる学校を実現する

- 教職員のメンタルヘルス不調の早期発見と治療につなげるストレスチェックや、疾病の早期発見・早期治療につなげるための各種健康診断事業等を行う。
- 「健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率」については目標値を概ね達成。
- 「学校管理下における事故災害で負傷する児童生徒の割合」については目標値を達成。学校側が丁寧な対応を行っているため、発生率が減少したのではないかと考えられる。

健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率（教職員）

年度	R6	R7
実績値	91.1%	91.5%

〈KPI〉
③⑨健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率（教職員）
○概ね達成
（目標値）92%
（実績値）91.5%（R7）

（資料）令和7年度職員定期健康診断実施状況等調査結果

学校管理下における事故災害で負傷する児童生徒の割合

年度	R6	R7
実績値	7.6%	7.3%

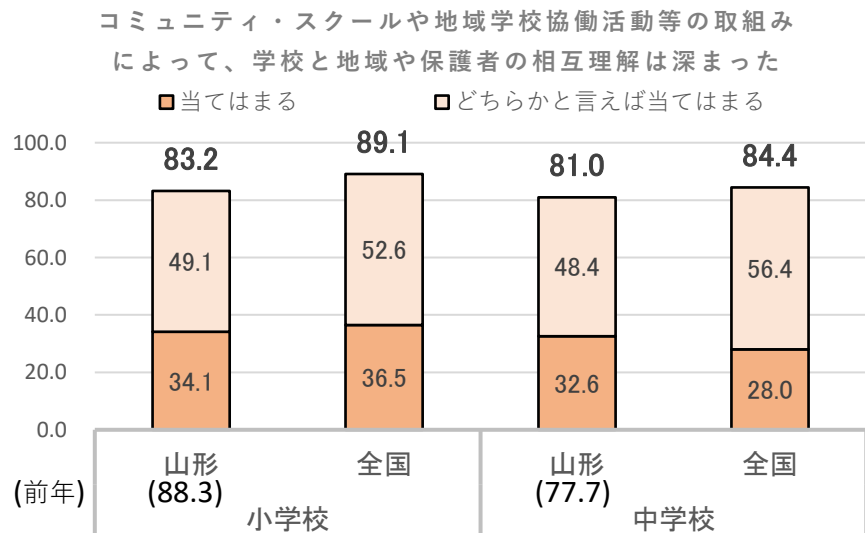
〈KPI〉
④⑩学校管理下における事故災害で負傷する児童生徒の割合
◎達成
（目標値）7.5%未満
（実績値）7.3%（R7）

（資料）令和7年度災害共済給付状況

Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

8 家庭や地域が一体となって学びを支える

- 教職員等を主な対象とした研修会を開催し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の理解促進を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進。
- 教育支援パートナーシップ推進事業として、主に業界団体を通じて企業等の登録に向けた周知活動を実施。
- 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組みによって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった小中学校の割合」は、目標値を概ね達成。
- 「教育活動に協力するパートナーシップ推進事業に登録した企業の数」は118であり、募集期間が短かったことで目標値に達しなかった（令和8年6月11日時点では138と、R7目標の92%まで増加）。



〈KPI〉
④①コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組みによって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった小中学校の割合
○概ね達成
(目標値) 小6:88.4%・中3:70.0%
(実績値) 小6:83.2%・中3:81.0% (R8.4)

教育活動に協力するパートナーシップ推進事業に登録した企業の数

年度	R8.3	R8.6
実績値	118	138

〈KPI〉
④③教育活動に協力するパートナーシップ推進事業に登録した企業の数
×未達成
(目標値) 150
(実績値) 118 (R8.3)
137 (R8.6)

(資料) 令和7年 県生涯教育・学習振興課調べ

第3部 7教振の推進について

Ⅰ 趣 旨

○ 7教振は、**県民一人ひとりが自分事として取り組む方向性**の下、「県民の皆様へ（メッセージ）」や「県民みんなでチャレンジ」を提示。よって、その推進に当たっては6教振以前と比して、**より一層、県民に直接伝わる周知等が重要**。

○ また、不確実性の高い社会経済状況の中、**7教振を実効性ある形で推進**するためには、一定の専門性の下、必要なデータを的確に収集し、分析・評価したうえで施策に反映していく必要。

⇒ 県民一人ひとりが7教振を自分事とするための参加型の活動を展開

(I) R 7 の実績

① ワークショップ「フトーク」
公募し、県内各学校、PTA・地域行事、
研修等に合わせて開催



【7トーク 令和7年度の実績から】

○県内各地から86件の依頼があり、

教育政策課職員が県内各地を訪問。

どの会でもたいへん楽しく生き生きと
対話する姿が見られた。

○児童生徒や企業の参加が少なかった。

		参加者数										
地区	実施回数	児童生徒等				一般			教職員等			小計／総計
		小	中	高	大	保護者	地域	企業	指導主事等	校長・教頭	教職員	
県内全域	19	0	0	89	8	41	82	0	148	520	376	1,264
村山	34	108	85	0	0	499	172	30	206	232	366	1,698
最上	7	0	40	5	0	10	55	0	8	25	113	256
置賜	14	0	0	0	0	130	45	0	39	86	157	457
庄内	12	0	8	0	0	19	31	0	26	125	120	329
小計	86	108	133	94	8	699	385	30	427	988	1,132	4,004
総計		343				1,114			2,547			

② P R 動画の作成

R7実績

推進委員会委員自らの言葉で7教振を伝える動画
や、子どもたちが体験等を行う様子、7トークの
動画を作成し、Youtube「なな教振ちゃんねる」で
公開

第7次山形県教育振興計画

ウェルビーイングを目指し 多様性あふれる
持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

なな教振ちゃんねるインタビュー～7教振推進委員会委員長 三浦登志一教授～

1分で説明「7教振」
～第7次山形県教育振興計画～

1分で説明「7教振」（第7次山形県教育振興計画）

③ 県政広報媒体（テレビ・広報誌）の活用

テレビ



やまがたサンデー5 毎週(日)17:15～17:30

- 目と耳で「楽しく・わかりやすく」県の事業(1つ)を紹介
- 平均視聴率**10%超！ 20%超**の回も!!
- 本放送のほか、**YouTubeでも公開**（1年間）

2月

いき☆いき やまがた 9月、11月、1月、3月の
(土)(日)(祝) 30分番組

- 「より深く・丁寧に」県の施策(複数事業)を紹介
- 時間をかけて、県の現況や施策の全体像を説明！
- 県内民放4局が週替わり放送 どのチャンネルでもOK

1月

広報誌



県民のあゆみ 奇数月の1日発行、全戸配布

1月

- 県の施策を手元に保存できる紙面で分かりやすく紹介
- 県民の4割(約40万人)が、情報入手の手段として活用※
- 電子版を県HPや広報誌アプリで公開
- 点字・音声読み上げ対応版など、障がい者向けも充実

※令和5年度インターネットアンケート調査(広報広聴推進課実施)

④ P R 資料の作成
「手に取ってもらう」
ことを主眼に、
県民向けポスターを作成

R7実績

ウェルビーイング目指して
子ども 大人も みんなで

チャレンジ!

このクローバーと矢印は何？
(問題を持った下の二次元コードへGO!)

【体験】
ワクワク無限大

【探究】
「なんで？」
を大切に

【尊重】
みんなが主役
で応援団

【協働】
みんな笑顔で

クローバーを7個さがして
チャレンジ!

ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の
第7次山形県教育振興計画 実現を担う山形の人づくり

7教振

7教振って何？
よくわかるサイト▶

企業・団体等の皆様へ
子どもたちの学びの充実に活かしましょう！
やまがた
教育パートナーズ
YAMAGATA EDUCATION PARTNERS

山形県教育委員会

⑤ P R 資料の作成

「手に取ってもらおう」ことを主眼に、 県民向けリーフレットを作成

第7次山形県教育振興計画（7教振）

今後10年間の山形県の教育の方向性と具体的な取組みをまとめたものです。

目標 ウェルビーイングを旨とし、多様なあふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

ウェルビーイングは、人それぞれ違うものです。それを目指すには、一人ひとりが、個人の幸せだけでなく、社会全体の幸せに関わる当事者として、自分なりに持てる力を活かして前向きに挑戦（チャレンジ）していることが大切となります。
このため、目標の実現に向けては、学校だけでなく、県民一人ひとりが、自分なりに教育に関わっていただきたいと考え、その思いをメッセージとしてお示ししています。この計画は、教育を自分事としてとらえ、取り組んでいくためのヒントにもなっており、4つの「県民みんなでチャレンジ」としてまとめています。
身近なことから県民みんなでチャレンジしていきましょう！

県民の皆さんへ（メッセージ）

（コメントはフートワークなどより）

県民みんなでチャレンジ！（イメージ）

<イメージ図>

「誰か・某か」
「生きがいを得て」
「挑戦（チャレンジ）」

自分の力を活かしている度合い

② 探究

一緒に地域の特産品づくりに
知恵を絞る！



探究学習「ミナソノメ」の生産振興
（和庄茶業産業振興）

④ 協働

「やまがた教育パートナーズ」
のロゴと一緒に考えよう！



美術部員とのデザインの打ち合わせ
（山形県立高校）

① 体験

ワクワク・ドキドキ！
みんなで一緒にけん玉体験！



地域学校協働活動 筑波大学子ども教室
（西川町立西川小学校）

③ 尊重

みんなで教育を語り合おう！
「フートーク」（県内各地で実施中）



生涯学習課、地域のみなさんが語り合う場
（山形県立高等学校）

ワクワク無限大

子どもたちが元気を満ちてチャレンジすると、失敗してもそこから自分なりに課題を見つけ成長していくような力がついていけばいいなと思っています。
（地域がランティマ（けん玉講師） 高山さん）

自分なりのチャレンジを書いてみよう！

プロ野球選手を目指して練習する（小学生）
英語の小説を読み切る（中学生）
家族でテント宿泊体験をする（保護者）

夢にやさしくする（小学生）

障がいを持った子どもたちとふれあう（高校生）
5人兄弟のそれぞれ良いところを伸ばす（保護者）

みんなが主役で応援団

多様な世代が協働して取り組むという考えはあまりない。主役の成長のためだけでなく、これからの地域づくりのためによい機会だったと思います。
（金井中学校学校運営協議会 会長 稲谷さん）

みんな笑顔で

山形に自給力が高いという企業があるの、そういう企業とどんな関係を築いて、学びを深められたらとてもいいなと思います。
（グラフィックデザイン 代表 内藤さん）

「なんで？」を大切に

取組みに一緒に参加することで、価値観も変わっていく。高校生の想い、企業の方があればかたちにできる、という役割も大きくなりました。
（園芸デザイン 部長 羽田さん）

一緒に地域の特産品づくりに知恵を絞る！

研修の技術を極めて子どもたちに見せる（企業）
看護の学びを活かして地域の役に立つ（高校生）
こだわりのシャープペンシルを開発する（中学生）

インターンシップで生徒とたくさん話す（企業）

絵画講座を開いて様々な人とつながる（地域）
色々なボランティアに参加する（小学生）

「やまがた教育パートナーズ」のロゴと一緒に考えよう！

美術部員とのデザインの打ち合わせ（山形県立高校）

みんな笑顔で

山形に自給力が高いという企業があるの、そういう企業とどんな関係を築いて、学びを深められたらとてもいいなと思います。
（グラフィックデザイン 代表 内藤さん）

チャレンジを支えるもの

教育DX

教育環境

子どもたちの挑戦欲や学びの意欲は、企業、関係者の皆さんとの協働分野を深めたいませんか？

やまがた教育パートナーズ

YAMAGATA EDUCATION PARTNERS

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

山形県教育委員会

第7次山形県教育振興計画（7教振）

前に取り組む施策の体系

人ひとりが自分らし
げにチャレンジする
5つの実現する

5の達成による効果的な様子

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

ウェルビーイングを旨として

子ども大人もみんなチャレンジ！

（体験）
（探究）
（尊重）
（協働）

ワクワク無限大

「なんで？」を大切に

みんなが主役で応援団

みんな笑顔で

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

（山形県立高等学校）

ウェルビーイングを旨とし、多様なあふれる持続可能な社会の

第7次山形県教育振興計画 実現を担う山形の人づくり

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

7教振

(2) R8の取組み

①ワークショップ「ワトーク」

○児童生徒への実施が増加、多様な形態。

- ・遊佐中：生徒総会で全校生徒が実施

- ・酒田三中、酒田四中：

地区自治会と地区の生徒で実施

- ・寺津小（天童市）：PTA教育講演会で親子で全校児童とその保護者で実施

○企業での実施については課題がある。

○山形大学で山形県で教員を目指す学生に実施
（東北文教大学でも実施予定）

R8 7 教振説明一覧 (260730 最新)

No.	事業名 (大会名・研修会名等)	開催日	児童生徒	保護者・PTA	地域・企業	指導主事等	校長・教頭	教職員	人数
1	遊佐町立遊佐中学校	4/30	8					2	10
2	白鷹町学校教育研究会総会	5/1						80	80
3	遊佐町立遊佐中学校	5/15	238					28	266
4	未来を語る会	6/5	414		20	1	2	30	467
5	大蔵村学校運営協議会・大蔵中学校	6/29	20	3	10	1		16	50
6	全県新採・5年研養護教諭研修	7/3				2		40	42
7	南陽市立赤湯小学校	7/15						30	30
8	醍醐小学校PTA研修会	7/17		30		2		12	44
9	天童市立寺津小学校親子7トーク	7/22	65	65					130
10	スクール・ミーティング(酒田四中)	7/24	10	10	10		2	8	40
11	西置賜地区小学校長会	7/31					14		14
12	山形大学7トーク	8/4	33					11	44
13	飽海地区中学校長・教頭研修会	8/24					16		16
14	県中堅研オンライン研修	9/9				1		25	26
15	北村山PTA研究集会 研修会	9/26		70			30		100
16	田川学研学校事務専門部 教育事務所と学校事務職員の共催研修会	10/22						90	90
17	酒田市立八幡小学校校内研修	11/18					2	18	20
18	令和8年度山形県公立小中学校事務職員 研究協議会 東村山支部研修会	1/19					1	23	24
		計	788	178	40	7	67	413	1,493

【7 トーク 令和8年度の様子】

○児童生徒への実施が増加、多様な形態。

・遊佐中：生徒総会で全校生徒が実施



事前に
生徒会執行部生徒と
打ち合わせ

当日は
生徒会執行部生徒が運営し、
教育政策課職員が講評



【7 トーク 令和8年度の様子】

○児童生徒への実施が増加、多様な形態。

- ・酒田三中、酒田四中：

地区自治会と地区の生徒で実施

地区の祭りをもっと
よくしたい

義務教育学校開校に向けて
地区の大人と中学生が対話

【7 トーク 令和8年度の様子】

○児童生徒への実施が増加、多様な形態。

- ・寺津小（天童市）：PTA教育講演会で親子で
全校児童とその保護者で実施



学校全体の合言葉が
「わくわくチャレンジ」

【7 トーク 令和8年度の様子】

○山形大学で山形県で教員を目指す学生に実施



教員になるために、今、
○○にチャレンジしている



② シンポジウム「7フェス」 講演、トークセッション、 ワークショップを開催予定

【概要（現時点の想定）】

1 日時・場所

令和8年11月21日（土）13：00～16：20
山形市霞城公民館 4F 講堂 ※ オンライン併用

2 内 容

（1）講 演

「みんなの幸せにつながる教育ウェルビーイング」（仮）

講師 東京学芸大学 教授 荻上 健太郎 氏

（2）トークセッション

テーマ：未定（「地域づくりと教育ウェルビーイング」等）

（3）ワークショップ（7トーク）

③教育データに基づく施策に係る研究

○ 今年度から遊佐町と東京学芸大学による、教育ウェルビーイング研究開発プロジェクトを開始

※ アドバイザー 東京学芸大学 教授 荻上 健太郎 氏

○ 県では、本プロジェクトに協力のうえ、今後、県内におけるモデル的な取組みとしての展開の可能性を検討する

※ 教育ウェルビーイング研究開発プロジェクト

- ・ 地域に根差したウェルビーイング指標の開発
- ・ 指標を活用した中長期的、縦断的な測定の推進
- ・ 測定結果の教育政策や教育現場へのフィードバック